

日本分析化学専門学校 議事録

平成 28 年度 学校関係者評価委員会

1 - 9 頁

日 時	平成 28 年 6 月 23 日 (木) 10:00 ~ 12:00												進行	議事録	記録		
出席者	出	出	欠	出	出	出	出	出	出	出	出	出					
	林田和也	内田敬	大原一浩	浜田妙	長田芽生	浅野浅春	佐藤智子	塚本昌己	渡邊快記								
No.	項 目			審 議 経 過										担当	期限		
1	開会			渡邊委員より、開会の挨拶がなされ、平成 28 年度 日本分析化学学校関係者評価委員会が開会した。													
2	委員紹介			<p>渡邊委員より本委員会の以下全委員について、欠席者も含めて紹介がなされた。</p> <p>→資料；「委員名簿」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林田和也 委員 (分野団体・大阪府職業能力開発協会 技能検定課長) ・内田 敬 委員 (企業・交洋ファインケミカル株式会社 総務部次長) ・大原一浩 委員 (高等学校・大阪府立成美高等学校 教諭) ・浜田 妙 委員 (在校生・卒業生保護者) ・長田芽生 委員 (卒業生・東洋サクセス株式会社) ・浅野浅春 委員 (校 長) ・佐藤智子 委員 (副校長) ・塚本昌己 委員 (専任講師) ・渡邊快記 委員 (専任講師) 													
3	校長挨拶			<p>校長の浅野委員より、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に向けた動向に関して、以下の説明があった。</p> <p>→資料；「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化のポイント(中央教育審議会 特別部会(第 17 回) 配付資料)」</p> <p>職業実践専門課程の認定校は、制度が開始された平成 25 年度が 472 校、1373 学科であったのに対して、平成 26 年度、27 年度の認定状況等を合わせて、現在合計で 833 校 (29.5%)、2540 学科 (36.2%) が認定されている。本校も、平日開講の全学科が平成 25 年度に、土日コースが平成 26 年度に認定されているが、この職業実践専門課程の認定状況から、競争相手が増えていることは明白であり、本日の委員会ではその観点も踏まえて、皆様方からご意見を頂戴できればと考えている。</p> <p>中央教育審議会の特別部会において、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化について、審議が進められている。新たに制度化される高等教育機関では、以下を育成する人材像としている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変化への対応が求められる中で、基礎・教養・理論にも裏付けられた優れた技能等を強みに、事業の現場の中核を担い、現場レベルの改善・革新を牽引していくことができる人材 													
<次頁に続きます>																	

日時		平成28年6月23日(木) 10:00 ~ 12:00											進行	議事録	記録
出席者	出	出	欠	出	出	出	出	出	出				渡邊 快記	塚本 昌己	塚本 昌己
	林田 和也	内田 敬	大原 一浩	浜田 妙	長田 芽生	浅野 浅春	佐藤 智子	塚本 昌己	渡邊 快記						
No.	項目	審 議 経 過											担当	期限	
3	校長挨拶 (前頁の続き)	<p>・高等教育の終了・入職時点で、専門的な業務を担うことのできる実践的な能力とともに、変化に対応し、自らの職業能力を継続して高めていくための基礎(伸びしろ)を身に付けた人材</p> <p>前述の人材を育成する新たな高等教育機関には、実践的な職業教育を提供するために独自の設置基準が整備されるが、現時点で発表されている以下の項目について、浅野委員より説明があった。</p> <p>・修業年限 ・教育内容と方法 ・教員 ・入学者の受入れ ・質保証 ・学位 ・名称 ・設置形態 ・財政措置 など</p> <p><委員のご意見など></p> <p>・企業内実習について(内田委員)</p> <p>→分野の特性に応じて、適切な指導体制が確保された「企業内実習」を2年間で300時間以上(4年間で600時間以上も)受け入れることは、企業側として相当難しいことだと考える。当社は、卒業年度の就職内定者に、入社前からアルバイトをしないかと誘い、正式な入社前から業務等に従事させている事例はある。そのような方法でしか、企業は対応できないというのが本音であり、この認定基準は現場感覚と大きく乖離していると言わざるを得ない。</p>													
4	委員会の位置づけと目的	<p>渡邊委員より、本委員会の位置づけと目的に関して、以下の説明があった。</p> <p>→資料;「専門学校における「職業実践専門課程」の認定について」 「拡充された教育訓練給付金制度が始まりました」 「職業実践専門課程の審査状況」 「平成27年度 学校関係者評価委員会議事録」</p> <p>1) 職業実践専門課程と本校の設置学科</p> <p>高等教育における職業実践的な教育に特化した新たな枠組み(職業専門大学(仮称);2019年導入見込み)づくりに向けた専修学校の専門課程における「先導的試行」の中、企業等との密接な連携により、最新の実務の知識等を身に付けられるよう教育課程を編成、より実践的な職業教育の質の確保に取り組む専門課程を文部科学大臣が認定し、推奨するものであり、平成26年4月からスタートしている。本校設置学科は、2年制・4年制および平日・土日を問わず、全てが職業実践専門課程として文部科学大臣から認定を受けている。</p> <p style="text-align: center;"><次頁に続きます></p>													

日時		平成28年6月23日(木) 10:00 ~ 12:00											進行	議事録	記録	
出席者	出	出	欠	出	出	出	出	出	出	出				渡邊 快記	塚本 昌己	塚本 昌己
	林田 和也	内田 敬	大原 一浩	浜田 妙	長田 芽生	浅野 浅春	佐藤 智子	塚本 昌己	渡邊 快記							
No.	項目	審 議 経 過											担当	期限		
4	委員会の位置づけと目的 (前頁の続き)	<p>2) 教育訓練給付金制度(厚生労働省)と本校の設置学科 雇用保険の被保険者期間が2年間以上あることを条件として、教育訓練給付金が受給できる、専門実践教育訓練制度の運用が昨春から開始された。この専門実践教育訓練講座としての申請条件の一つが職業実践専門課程に認定されていることであり、本校の2年制学科(資源分析化学科・有機テクノロジー学科・生命バイオ分析学科・化学分析コース)は既に申請し、給付の対象講座として指定を受けている(ただし、化学分析コースは学科改変により、平成28年度入学生までが給付対象である)。</p> <p>3) 職業実践専門課程の認定基準 認定基準の主なポイントは、以下の①～⑤である。 ①教育課程委員会の設置 企業等が参画する委員会(教育課程編成委員会)を設置し、ここでの意見をカリキュラム編成の上で考慮、反映する。 ②企業連携 学生の就業関係分野の企業と連携して、実験・実習などの授業を実施している。 ③教員研修 企業等と連携して、最新の実務や指導力を修得するための教員研修を実施している。 ④学校関係者評価委員会 企業等が参画する委員会(本委員会)を設置し、学校自己評価の結果を評価し、その内容を公表している。 ⑤情報公開 学校のカリキュラムや教職員等の情報についてHPで公開している。</p> <p>4) 専門学校の学校関係者評価のイメージ 学校評価は外部のアンケート等も参考に、教職員による評価(自己評価)をPDCAサイクルに基づき実施、学校自らが選任した学校関係者(業界団体・企業・高等学校・保護者など)による委員会が自己評価の結果について評価を行う(学校関係者評価)。また、学校関係者は教職員と共通理解を図り、自己評価結果の客観性・透明性を高める今後の学校運営の改善のための助言等を行う。この評価結果をとりまとめ、公表するとともに学校へフィードバックして改善を促し、学校運営の質について一定レベルを担保していく。 このような主旨をご理解いただき、委員会では教職員による学校評価(自己評価)について忌憚のないご意見をいただきたい。</p> <p style="text-align: center;"><次頁に続きます></p>														

日時		平成28年6月23日(木) 10:00 ~ 12:00											進行	議事録	記録	
出席者	出	出	欠	出	出	出	出	出	出	出				渡邊 快記	塚本 昌己	塚本 昌己
	林田 和也	内田 敬	大原 一浩	浜田 妙	長田 芽生	浅野 浅春	佐藤 智子	塚本 昌己	渡邊 快記							
No.	項目	審 議 経 過											担当	期限		
5	本校自己評価の報告 (保護者懇談会での アンケート結果) (前頁の続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの回答者数は121名(欠席者を含め約50%) ・学生の在籍学年によって回答内容の特徴に差がないため、全回答者の回答結果を図化している。 ・回答結果が良好な結果であった質問内容 <ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・人材育成等々の教育目標は適切か ・ご子息・ご息女を本校に入学させてよかったと思うか ・回答結果から保護者のご理解が十分とは言えない質問内容 <ul style="list-style-type: none"> ・課外活動に対する支援体制は十分と思うか ・災害に対する備えはできていると思うか ・学生のボランティア活動を奨励、支援していると思うか <p>※全ご家庭のうち、約50%は保護者懇談会に出席されていないため、その50%はどうかのことも考慮していく必要がある。</p>														
6	自己評価についての意見	<p>各委員より、平成27年度自己評価結果に関して、以下の意見が挙げられた(出席委員から事前に寄せられた意見を含む)。 →資料;「平成27年度 自己評価結果報告書」 「平成27年度 自己評価結果へのご意見」</p> <p>1) 自己評価項目「学校運営」について ①運営組織や意思決定機能は明確化し、効率的なものになっているか。 →個人の能力に差があるのは当然として、「先生」は学生にとって良き理解者、良き師匠であってほしいと思う。学生、保護者が頼りにするのは「先生」だけ。学生及び保護者とともに、更なる教員の成長を祈念している。(内田委員)</p> <p>2) 自己評価項目「教育活動」について ①人材育成目標の達成に向けて授業を行うことができる教員を確保できているか。 →教員の学校内部での研修内容の詳細は存じ上げませんが、マンパワーという観点から外部研修も積極的に取り入れ、「一社会人」として、さらなる修養に益々尽力くだされば幸いです。(内田委員) →学生気質が変化している現在において、先生がどのように対応するかが重要だと思う。各評価の結果を考えすぎると授業にもマイナス面の影響が生じると思う。(林田委員) →決められた枠の中で、学生のためになるようにどうすればよいかを考えればよい。(内田委員) ※内部・外部の研修内容一覧、授業・実験評価アンケートの集計結果(平成27年度 第4回目)を回覧。</p>														

<次頁に続きます>

日時		平成28年6月23日(木) 10:00 ~ 12:00											進行	議事録	記録
出席者	出	出	欠	出	出	出	出	出	出				渡邊 快記	塚本 昌己	塚本 昌己
	林田 和也	内田 敬	大原 一浩	浜田 妙	長田 芽生	浅野 浅春	佐藤 智子	塚本 昌己	渡邊 快記						
No.	項目	審 議 経 過											担当	期限	
6	自己評価についての意見 (前頁の続き)	<p>3) 自己評価項目「学習成果」について</p> <p>①退学率の低減が図られているか。</p> <p>→(東京理科大学のデータでは)6月第1週から出席状況が不芳になる学生が退学する至るケースが多いようであり、同期の出席確認を強化しているようである。(内田委員)</p> <p>→本校では、日常から出席状況の確認を行い、状況に応じて保護者との連携も図っている。特に、GW明けや、学生の長期休暇後はその出席状況に注視している。(渡邊委員)</p> <p>→平成28年度の入学生について、現時点までの出席状況は良好といえる。しかし「化学実務駅伝」の実施日であった昨日の出席状況には問題があった。企業様が来校されての講演であり、スーツ、男子はネクタイの着用を義務づけているが、クールビズの検討も必要か。(佐藤委員)</p> <p>→ネクタイの着用は大切なことだと思う。採用試験においてネクタイの色が理由で不採用にした事例もある。日本分析化学専門学校では、学内での選考もあるため、その選考を信用し、応募者のよいところを見つけることと、教員から提供のあった情報と人物に差がないかを確認することに主眼を置いている。“これは目を瞑れない”ということがない限り採用を前提に面接している。大学生の採用試験でピンク色のネクタイをした学生を不採用としたが“これは目を瞑れない”事象であった。(内田委員)</p> <p>→在学中、周囲の男子学生の考え方は、企業様が来校されて講演される際のネクタイ着用には「当然」という考え方であった。(長田委員)</p> <p>→就職活動に向けて、スーツ・ネクタイを着用する機会にもなると思う。(浜田委員)</p> <p>→企業では、採用試験時の服装に“カジュアル”と指定する企業もある。この“カジュアル”を勘違いして採用試験にくる大学生がいると聞いている。昨日の出席状況について単にスーツ・ネクタイが嫌だからという理由ではないかも知れない。(林田委員)</p> <p>→「化学実務駅伝」実施日の欠席者数に関して、先ずはその原因を把握する必要がある。(浅野委員)</p> <p>4) 自己評価項目「学生支援」について</p> <p>①学生の経済的側面に対する支援が全面的に整備され、有効に機能しているか。</p> <p>→当社に入社した社員はほぼ奨学金を借り、就職後の返済に一生懸命で、金銭感覚がしっかりしていて感心する。その反面で、少し切ない気持ちにもなる。(内田委員)</p> <p style="text-align: center;"><次頁に続きます></p>													

日時		平成28年6月23日(木) 10:00 ~ 12:00											進行	議事録	記録	
出席者	出	出	欠	出	出	出	出	出	出				渡邊 快記	塚本 昌己	塚本 昌己	
	林田 和也	内田 敬	大原 一浩	浜田 妙	長田 芽生	浅野 浅春	佐藤 智子	塚本 昌己	渡邊 快記							
No.	項目	審 議 経 過											担当	期限		
6	自己評価についての意見 (前頁の続き)	<p>4) 自己評価項目「学生支援」について</p> <p>②保護者と適切に連携しているか。</p> <p>→一保護者としてはありがたい。学生として、成人を迎える(迎えた)大人として、中途半端な年頃の対応を大変だと思うが、大人になる「少しの支え」になってほしいと思う。 (内田委員)</p> <p>→少子化で学生気質にも変化が見られる。学校に、おんぶに抱っこではいけない。(林田委員)</p> <p>→学校での様子を家庭ではあまり聞かない方がよいと。聞き過ぎると逆に話さなくなる。親としても関わり方が難しく、同じく日本分析化学専門学校を卒業した兄から情報を得ることもある。放っていいのか関わっていいのか、正直判らないこともある。(浜田委員)</p> <p>→「少しの支え」になることが重要だと思う。(渡邊委員)</p> <p>→その後に、自立することが必要なので、そのための支えと考えてほしい。(内田委員)</p> <p>→本校では在学中だけではなく、企業に入ってからのことを考慮して指導している。(佐藤委員)</p> <p>→専門学校生は大学生と比較して、明確なビジョンをもっており、退学に至るケースは希ではないか。(内田委員)</p> <p>→退学をゼロにするのは非常に難しい。先日も、学業の面でどうにもならないと自覚して退学した学生がいる。心身の問題もあり、中学校・高等学校で学校に通学できなかった学生である。教員が医者への代わりをすることは困難である。就職率についても、100%は非常に難しいと考えている。臨床心理士の資格をもつスクールカウンセラーに定期的な来校をお願いすることとなった。 (浅野委員)</p> <p>5) 自己評価項目「社会貢献・地域貢献」について</p> <p>①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献が実施できているか</p> <p>→サイエンスフェスタ等には学生たちがボランティアで参加しているようなので、可能であれば夏季の実験会でも貴校学生の参加を追求してみてもどうか。特に、高校生を対象とした実験会では、先輩たちと触れ合う機会があることで、高校生は貴校をさらに身近に感じるのではないかと。高校の教員も、学生たちの様子は話で聞くだけなので直に話してみたいという興味がある。準備などがさらに大変になると思うが、実現可能性があるならご一考いただきたい。 (大原委員)</p>														
<次頁に続きます>																

日時		平成28年6月23日(木) 10:00 ~ 12:00											進行	議事録	記録
出席者	出	出	欠	出	出	出	出	出	出				渡邊 快記	塚本 昌己	塚本 昌己
	林田 和也	内田 敬	大原 一浩	浜田 妙	長田 芽生	浅野 浅春	佐藤 智子	塚本 昌己	渡邊 快記						
No.	項目	審 議 経 過											担当	期限	
6	自己評価についての意見 (前頁の続き)	<p>→この提案がある前より、学生広報委員会の晴れ舞台として実験会でのサポート担当として参加させることを検討している。実現できると考えている。(佐藤委員)</p> <p>②学生のボランティア活動を激励、支援しているか。 →ボランティアはぜひ積極的に参加させてください。本当に勉強になります。心が洗われます。ただ、ボランティアは自分からやろうとしなければ身にならない。私も発達障害をもつ方の支援や、大阪マラソンのボランティアに参加している。大阪マラソンのボランティアは、今も受付中なのでぜひという学生がいれば、連絡をいただきたい。 (内田委員)</p>													
7	その他	<p>1) 今春入社した日本分析化学専門学校の卒業生3名の様子 →先日、会社内部の食事会があり、久しぶりに3名と再会し、会談した。それぞれの人間性は異なるが、その強みを生かし頑張っているように感じた。皆、いい顔をしている。冒頭の「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化のポイント」にも関係するが、2年間で得られる素養に加えて人間力が必要と考える。具体的には、周囲から可愛がられる人間性、誠実であり、甘え上手でもあること。(内田委員)</p> <p>2) 日本版マイスター制度に関して →第一級の職人を育成するドイツのマイスター制度にならって昨年より、現在の技能検定制度とは別の新たな制度の創設に向けて検討を始めている(日本版マイスター制度(仮称))。若年層のものづくり系産業への入職率を高めるため、熟練工として一段の地位向上を図り、待遇の改善や後継者不足等の問題を解消したいという意向がある。新たな高等教育機関の制度化と今後関係してくる可能性もあると考えている。 (林田委員)</p> <p>3) その他 →理科離れに対して、中学校では「理科」と「技術」を一緒に授業する取組事例がある。(林田委員) →大阪工業技術専門学校では、技能検定3級の合格者に対して小学生に教える経験をさせる取組事例がある。日本分析化学専門学校でも、技能検定制度と学生ボランティアに何らかの関係性をもたせてもよいと思う。(林田委員)</p>													

<次頁に続きます>

